



銀座プロッサム・ピーガーデン(詳細次頁)の菜の花畑に初登場した銀座ち。花から花へ今年も飛ぶよ! 銀座の空を♪ photo: Naoko Yamamoto '09.3.17

ミツバチがつなぐ 人と場所と物語

地域と食を応援する銀座ファームエイド。
銀座のミツバチは花と花だけでなく、人と人、都市と地方、
いろんな人の想いや物語をつないでいきます。
これから新しい「里山」を目指す銀座にご注目ください。

銀座ミツバチプロジェクトが2008年5月から主催する「ファーム・エイド銀座」を高安さん、田中さんとの出会いからお手伝いさせていただいています。

都市で私たちが毎日食べているものにはたくさんの方が関わり、多くの想いが込められています。今、そのつながりを意識することは残念ながらあまりありません。ファーム・エイド銀座では、おいしい食べ物は誰がどうやって作ったのか、どんなところで作られたのか、作り手の込めた想い、は何なのか、そんな食と農の物語を銀座で消費者が知ることで、作り手と買い手のつながり、地方と都市のつながりを感じられるようにプログラムを工夫しました。毎日の3度の食事の度にそんなつながりに思いを馳せられたら、多くの人に自分が支えられていることを感じ、豊かな気持ちになれると思つたからです。そうしたつながりを感じた消費者が作り手の物語に価値を見出し、日本の食と農の応援団になってくれればと思います。11月までの6回のファーム・エイド銀座に参加しました。

ファーム・エイド銀座をほぼ毎月1回開催していく中で、地方の作り手と都会の消費者とのつながりはもちろん、食と農を応援する様々な人々、銀座のまちづくりや地域おこしを考へる人々、同じくつながりを求めて映画づくりをしている方々、ファーム・エイドを手伝ってくれる若者(農

林水産省の若手もボランティアでお手伝いしています)など、当初の期待以上に多くの方との新しいつながりが生まれました。08年最後のファーム・エイド銀座では、このつながりが更に広がっていくことを期待して、次のような宣言をまとめました。

『ファーム・エイド銀座宣言』

1 銀座でエディブル・ランドスケープ(食べられる景観)を目指し、街全体に花と緑があふれ、屋上では野菜やお米など食べられる物を育てることで、新しいコミュニティが生まれ、さらにミツバチが受粉することで、木々や作物が実を付け小動物や小鳥が食べに来る新しい生態系が生まれる——そんなすべの生命(いのち)が輝く新しい「里山」としての銀座づくりを実践します。

2 銀座で地方の作り手の想いに共感し、地方の自然の恵みを銀座のものづくりの技で磨くことで、銀座を入口とした地方との新しいつながりが生まれる——そんな都市と地方がお互いに支え合い、行き来し合う新しい関係づくりを実践します。

3 出あい、助けあい、学びあひながら、生命(いのち)への感謝の気持ちを育みつつ、すべての仲間がこの活動に楽しく参加し、広げていく——世界的な金融システム不安にも影響されない生命(いのち)をつなげる顔の見えるネットワークづくりを実践します。



2008年7月のファーム・エイド銀座では「やるじゃん! お米」をテーマに、米粉パンをはじめ、たくさんの米・米製品が紹介されました。



農家や地域の人と直接触れあひ、おいしい食と農を知って味わう銀座の市場「フチ・マルシェ」

4 2010年に名古屋で開催される第10回生物多様性条約締約国会議(COP10)をはじめとするあらゆる機会に、この活動に体现される「人と自然が共生する里山」他者を尊重するおかげさまの精神「多様な主体による相互扶助」といった日本が誇る価値観を発信していきます。

ファーム・エイド銀座に関わることで、霞が関の机上では体験できない貴重な経験をさせていただき、本当にたくさんの人に出会い、助けられ、学ばせてもらいました。この場を借りてお礼を申し上げます。人が一人で行けることは限られていますが、様々な仲間がお互いを尊重し合い、つながること、人の心を動かすプロジェクトになるのだということを実感しました。ミツバチは花と花だけでなく、人と人、都市と地方、いろいろな人の想いや物語をつないでいくのです。今年も5月から「ファーム・エイド銀座宣言」の内容を実現し、より多くのつながりを作りネットワークを広げていくため、ファーム・エイド銀座2009を開催します。皆さんもつながる幸せを感じにどうぞご来場ください。